



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第6巻第
12号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第6巻第12号). 泌尿器科紀要 1960, 6(12): 1256-1256

ISSUE DATE:

1960-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/112051>

RIGHT:

編集後記

秋の大きな学会は10月と11月中にすんで、12月になると年末の雑務に追われる。本年もいろいろの事があつたが、昨今特に注目せられるのは病院ストである。看護婦や医療従業員の待遇は一般に確かに低い。今のところ医師は動いていないようであるが、医師の待遇もよくない。昔から医は仁術とか、ナイチンゲール精神とか云つて、医療面に於ては奉仕の精神が讃えられ、医療従事者も何となくそんなムードに包まれていた。勿論、そのような精神は立派であり、必要である。然しそのために現代生活に於ては不合理な、後進的な面が出て来る。今頃になつて漸くそれが表面に現われて来たのである。今度のストの要求は大体に於て無理はない。適切な解決が是非とも必要である。根本の問題は健保医療費が低くすぎることにある。1日1剤17円とか、1日入院料500円とかで、十分な医療が行われたり、病院の経営が成り立つわけがない。このように医療費を低く抑えているのは、政府、官僚、政治家、保険者、労組等であり、それらはいずれも自分らの都合のために、そんな事を云っているのである。然しそれだからと云つて、医療従事者が低い待遇に甘んじて居なければならぬわけではない。一般の労組は医療費値上げに反対しているが、医療労組の中から待遇改善運動が起つたわけで、社会党も今までは医療費を抑える方針をとつて来たが、今後はその方針を変えねばならぬのは皮肉である。医師会は従来から一点単価値上げを主張して来たのに実効は殆ど得られなかつたが、今度の病院ストによつて効果が挙げられそうであるのも皮肉である。病院と云うものの社会に与える影響が大きい事や、組織的活動が力強いと云う事が、世間や政府を動かしたのであろうが、従来からの厚生省と日医との間柄には、大きな問題があると考えられる。



京大泌尿器科講師日野豪博士は関西医大泌尿器科助教授に就任せられることになつた。



昭和35年を送るに当つて会員諸氏の御健勝を祈ると共に、日本泌尿器科学会の発展を念願する(昭和35年12月)

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金 100円、払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は総説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は初校のみ著者校正とし、再校以降は編集者が行う。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。